

## ワークショップ「肝癌新規バイオマーカーの開発」

司会：加藤 直也 先生（千葉大学大学院医学研究院）

奥坂 拓志 先生（国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科）

### 【司会の言葉】

血液や尿、糞便、組織などから調べられるバイオマーカー測定の役割は多岐にわたり、病変の早期診断のみならず、遠隔転移など病期の進行度の指標となる。一方で、個別化医療は個々の患者に対する治療効果の最大化と副作用の最小化を目的とし、複数の分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬の肝癌治療への適用が見込まれる現在、バイオマーカーによる治療選択の決定は臨床上極めて重要である。本ワークショップではリキッドバイオプシーをはじめとする肝癌患者の診断や治療方針の決定のために有用なバイオマーカーについて、エクソソーム、cell-free DNA のエピゲノム異常や遺伝子変異、ネオ抗原の測定など既存・新規を問わず幅広く検討する。